

滋賀県立農業大学校シラバス 301

講座名	茶の栽培基礎Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	---------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	32時間（2単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

茶の形態、茶の基礎用語、茶の生育と生態、茶の栄養生理

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	チャの起源と分布 -植物学的分類、起源と分布-
第2回（4時間）	チャの形態 -各器官の形態と特性-
第3回（4時間）	基礎用語 -栽培分野-
第4回（4時間）	チャの生育と生態(1) -茶樹の一生-
第5回（4時間）	チャの生育と生態(2) -チャの生育条件、生育のリズム-
第6回（4時間）	チャの生育と生態(3) -栽培管理とチャの生育-
第7回（4時間）	チャの栄養生理(1) -炭水化物代謝、窒素代謝-
第8回（4時間）	チャの栄養生理(2) -水分代謝、無機代謝-

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

○茶の栽培と利用加工 ○新茶業全書 ○滋賀県茶生産技術指針、
○茶の大百科Ⅰ ○茶の大百科Ⅱ
○茶業研究報告第85号（1997） P29～69 茶業関係試験研究用語集

到達目標

- チャの植物的分類が理解できている。
- 茶樹の形態的なしくみとその特性について理解できている。
- チャの生理生態について基礎的な知識が身につく、栽培管理と関連付けて理解することができている。
- チャの栽培分野の専門用語が身につく。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 302

講座名	茶の栽培基礎Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	---------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 共通 <u>専攻</u>	対象学生	1 年 <u>2 年</u> 就農
学期	前期 <u>後期</u>	時間数（単位数）	16時間（1 単位）
授業形態（○記入）	<u>講義</u> 演習	<u>実験</u> 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

チャの育苗～育成期間の栽培法、チャの覆下栽培法、栽培試験における調査手法

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	チャの栽培法（1）-増殖法、定植、幼木期の管理
第2回（4時間）	チャの栽培法（2）-覆下栽培のねらいと実際-
第3回（4時間）	チャの調査法（座学）-作況調査、生育調査、収量調査など-
第4回（4時間）	チャの調査法（実験）-生育調査、収量調査-
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

○茶の栽培と利用加工 ○新茶業全書 ○滋賀県茶生産技術指針
○茶の大百科Ⅰ ○茶の大百科Ⅱ

到達目標

○茶樹の増殖から定植、育成に関する基礎知識が身についている。
○覆下茶生産の意義と栽培技術について基礎知識が身についている。
○チャの栽培試験について基本的な調査手法が習得できている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 303

講座名	茶の栽培応用Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	---------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	☐ 演習	☐ 実験 ☐ 実習 ☐ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

茶の品種特性、茶園の造成、凍霜害とその対策、その他気象災害対策

授業内容（2時間を1回分とした内容）

第1回（2時間）	茶の品種の特性概論
第2回（2時間）	茶の品種を活用した経営戦略
第3回（2時間）	茶園の造成（茶樹の繁殖）
第4回（2時間）	茶園の造成（造成方法、定植方法）
第5回（2時間）	茶樹の気象災害概論
第6回（2時間）	茶樹の気象災害各論
第7回（2時間）	凍霜害対策の実践
第8回（2時間）	総合学習（授業のまとめ）

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 茶の栽培と利用加工 ○新茶業全書
- 茶大百科Ⅰ ○茶大百科Ⅱ
- 滋賀県茶生産技術指針

到達目標

茶の品種特性、茶園の造成、凍霜害とその対策、その他気象災害対策についての応用的な知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 304

講座名	茶の栽培応用Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	---------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

摘採とせん枝、茶樹の更新、年間作業計画、栽培管理作業の機械化

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	摘採とせん枝
第2回（4時間）	茶樹の更新
第3回（4時間）	年間作業管理計画
第4回（4時間）	栽培管理作業の機械化
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 茶の栽培と利用加工 ○新茶業全書
- 茶大百科Ⅰ ○茶大百科Ⅱ
- 滋賀県茶生産技術指針

到達目標

茶園の摘採およびせん枝、年間の作業管理計画、栽培管理作業の機械化についての応用的な知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 305

講座名	茶園の施肥法Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	---------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	☐ 演習	☐ 実験 ☐ 実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

肥料の種類とその性質およびチャにおける肥料成分の吸収利用特性を理解し、年間施肥作業等茶園の施肥に関する基礎知識を習得する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	茶園で使用する肥料の種類と特性
第2回（4時間）	土壌改良資材の種類と施用法、チャの養分吸収特性
第3回（4時間）	茶園土壌における微生物の役割、施肥時期・施肥量と収量・品質
第4回（4時間）	施肥設計法（演算含む）、茶園における年間施肥作業

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

茶の栽培と利用加工
滋賀県茶生産技術指針
土壌・植物栄養・環境事典

到達目標

肥料の種類とその性質、およびチャにおける肥料成分の吸収利用特性が理解できる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

☐記述テスト ☐出席状況 ☐提出物の有無と内容
☐授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 306

講座名	茶園の施肥法Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	---------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	演習	実験 実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

茶園における施肥の実際、環境保全型施肥技術に関する基礎・応用知識を習得する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	肥料の製造法（肥料工場見学等：朝日工業）
第2回（4時間）	茶園における施肥の実際
第3回（4時間）	茶園における環境保全型施肥技術
第4回（4時間）	土壌養分分析法
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

茶の栽培と利用加工
滋賀県茶生産技術指針
土壌・植物栄養・環境事典

到達目標

環境保全型施肥技術の理念、考え方を理解し、実際に年間の施肥計画を組立てられる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

☐記述テスト ☐出欠状況 ☐提出物の有無と内容
☐授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 307

講座名	茶の製造・再製Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	----------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
茶の分類、製茶工場と製茶機械、茶の製造法

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	茶の分類、基礎用語　－　利用加工分野－
第２回（４時間）	生葉の取扱と保管、製茶工場と製茶機械
第３回（４時間）	煎茶製造法
第４回（４時間）	その他緑茶の製造法、半発酵茶・紅茶の製造法
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
○茶の栽培と利用加工　　○滋賀県茶生産技術指針　　○茶の大百科Ⅰ	

到達目標
○製造方法の違いによる茶の分類について理解できている。 ○せん茶製造工程の基礎理論が理解できている。 ○せん茶用製茶機械の構造や機能が理解できている。 ○せん茶以外の茶種の製造法に関して基礎知識が身についている。 ○利用加工分野の専門用語が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 308

講座名	茶の製造・再製Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	----------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

茶の再製加工技術についての基礎知識および品質鑑定技術を修得する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	茶の再製加工
第2回（4時間）	茶の貯蔵、包装
第3回（4時間）	茶の品質評価
第4回（4時間）	官能審査法
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

茶の栽培と利用加工
滋賀県茶生産技術指針、茶の大百科Ⅰ

到達目標

茶の再製加工技術の基礎知識が修得でき、品質鑑定の要点が理解できる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出席状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 309

講座名	茶の化学	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
荒茶品質と化学成分、茶の摘採期・熟度と化学成分

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	茶の味・香気と化学成分
第２回（４時間）	茶の水色・色沢と化学成分
第３回（４時間）	茶の摘採期・熟度・茶種と化学成分１
第４回（４時間）	茶の摘採期・熟度・茶種と化学成分２
第５回（４時間）	
第６回（４時間）	
第７回（４時間）	
第８回（４時間）	
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
○茶の栽培と利用加工 ○新茶業全書 ○茶大百科Ⅰ ○茶大百科Ⅱ ○滋賀県茶生産技術指針	

到達目標
荒茶品質（味・香気・水色・色沢）と化学成分、茶生葉の摘採期・熟度と化学成分、茶の種類と化学成分についての基礎知識を習得する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 310

講座名	植物保護	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年	☐ 2年	☐ 就農	
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）			
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☒ 演習	実験	実習	見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

作物保護の重要性、病気の基礎知識、伝染方法、病害の原因と診断、病害の発生と環境条件、害虫の生態、防除対策、作物保護の手段

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	作物保護の重要性、植物病理学、応用昆虫学とは
第2回（4時間）	病害の伝染・病害の発生と環境条件病害の発生と環境条件・病害の診断作物保護の手段
第3回（4時間）	各種害虫防除法と殺虫剤抵抗性 主要な農業害虫の生態と生態を考慮した防除技術
第4回（4時間）	基本的な病虫害管理手法と総合的病虫害防除（IPM）の概念

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- ・自作資料（参考図書：「植物防疫講座（病害、害虫・有害動物編）」日本植物防疫協会、「現代応用昆虫学」朝倉書店 他）
- ・減農薬害虫防除DVD（農文協）

到達目標

- 作物保護の重要性について理解することができる
- 各種作物の病害、虫害の種類、生態に理解できる
- 病虫害の発生生態と環境条件，病虫害の診断について理解することができる
- 作物保護のさまざまな手段について理解することができる

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は，講義を主とする科目であることから，評価は筆記試験やレポート等の成績のほか，出席日数，受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により，50点以上を合格とし，50点未満を不合格とする。なお，成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について，本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし，追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 311

講座名	茶の病虫害	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	-------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

茶の病虫害の発生生態と被害、茶の病虫害の防除方法、天敵を利用した防除、化学合成農薬を使用しない防除方法

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	茶の病虫害の発生生態と被害 1
第2回（4時間）	茶の病虫害の発生生態と被害 2
第3回（4時間）	茶の病虫害の発生生態と被害 3
第4回（4時間）	講義のまとめ

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 茶の栽培と利用加工
- 新改訂版・目で見る茶の病虫害
- 茶の大百科Ⅱ
- 滋賀県茶生産技術指針

到達目標

- 茶の病害についての基礎的な知識が身についている。
- 茶の虫害についての基礎的な知識が身についている。
- 茶の化学合成農薬を使用しない防除方法について理解ができている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 312

講座名	茶業経営	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

茶業経営の性格、茶業経営の現状と課題、茶業経営の動向

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	茶業経営の性格 茶業生産のタイプと動向
第2回（4時間）	生葉売り経営 共同工場経営
第3回（4時間）	自園自製経営 企業の法人経営
第4回（4時間）	共同化・法人化の経営事例 茶流通の特徴と流通システム

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 茶の栽培と利用加工
- 茶大百科Ⅰ
- 茶大百科Ⅱ

到達目標

- 茶業経営が総論的に理解できている。
- 様々な茶業経営形態の基礎的な知識を持ち、その現状と課題について理解できている。
- 茶の流通に関する基礎的な知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 313

講座名	専攻演習（ゼミナール）Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	--------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- ① 選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
- ② 技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1～8回 (32時間)	1年次において選定した課題について、文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

なし

到達目標

課題を発見し、解決に向けた情報収集、整理して取り組むことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○ 授業態度 ○ 出席日数

評価基準

本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 314

講座名	専攻演習（ゼミナール）Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	--------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① 選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
② 技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～8回 （32時間）	2年次において選定した課題について、文献を収集・整理し、論点整理をするとともに技術・経営について検討を加え、発表力の向上を図る。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題を発見し、解決に向けた情報収集、整理して取り組むことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 315

講座名	実習およびプロジェクト学習Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	----------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	448時間（14単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 ☒ 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農作物栽培の基本技術を習得するとともに自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論づけを行い各自がプロジェクトとしてまとめる。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～112回 （448時間）	1年次において、自身が定めた専攻で、農作物栽培の基本技術を習得する。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題解決に向けた取り組みを実施することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 316

講座名	実習およびプロジェクト学習（2年）	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	-------------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	544時間（17単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 ☒ 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農作物栽培の基本技術を習得するとともに自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論づけを行い各自がプロジェクトとしてまとめる。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～136回 （544時間）	2年次において、自らの経営計画に基づくプロジェクトの実施および取りまとめを行う。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題解決に向けた取り組みを実施することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 317

講座名	卒業論文	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	160時間（5単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① プロジェクトの内容の検討と課題の決定
② 課題解決し、プロジェクトとしてとりまとめる
③ 報告会での発表と論文として発刊する

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～40回 (160時間)	内容の検討、課題の決定、とりまとめと発表

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入
なし

到達目標
課題解決に向けた取り組みを分かりやすく発表することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、演習科目であることから、評価は、成果物、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。